

HIDESへの天文コムの導入について

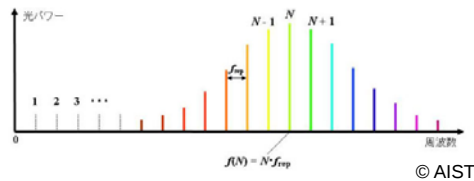
神戸栄治^{*1}、筒井寛典^{*1}、泉浦秀行^{*1}、Malte Schramm^{*2}、
大久保章^{*2}、中村圭佑^{*2}、山本宏樹^{*3}、小林拓実^{*2}、洪鋒雷^{*3}、
大苗敦^{*2}、保坂一元^{*2}、美濃島薫^{*4}、稲場肇^{*2}

^{*1}国立天文台岡山天体物理観測所

^{*2}産業技術総合研究所

^{*3}横浜国立大学

^{*4}電気通信大学



科学研究協力者(現在): 佐藤文衛 (東京工業大学)、
Krzysztof Helminiak (Subaru/NAOJ)

経緯と予定

* 2009年10月

4th RV workshop (札幌) から (現) 産業技術総合研究所
計量標準総合センター物理計測標準研究部門
周波数計測研究グループとの交流が始まる

* 2014年1月

ERATO 美濃島知的光シンセサイザプロジェクト* (2013年
10月～2019年3月) が始まり、光コムの天文分野への応用
として、HIDESへの天文コムの導入の検討依頼

* http://www.jst.go.jp/erato/research_area/ongoing/mch_PJ.html

* 2015年1月

380 nm ~ 540 nm をカバーする天文コムの製作に目途
→ HIDESへの年内の導入を本格的に検討開始

* 2015年11月 天文コム搬入？

* 2016年～ 試験観測開始？

初期の計画とサイエンス

* 装置

天文コム本体

→ Dr. Schramm's talk

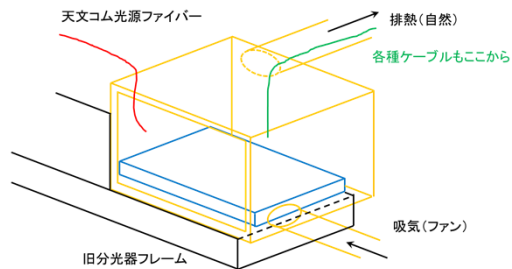
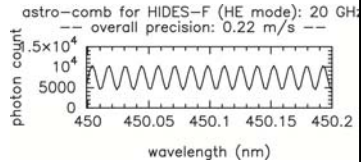
380 nm～540nm、20GHz、本体の視線速度測定精度～30cm/s

高精度な(～10cm/s)標準的波長校正光源となることが期待されている

クーデ内部屋に配置(湿度、振動等の制限)

Th-Arの代用として(切り替えて)使用

初期の測定精度の目標 ～20 m/s



一時的にC10光学系を退避させています

初期の計画とサイエンス

* サイエンス(immediate goals)

RV survey of detached EBs

さまざまな種類の恒星の物理学的研究のための基礎的なカタログ作り

暗めのF-K型星の周りの巨大質量系外惑星探し

ヨードセル法に比べて、光量で1.5倍、波長域で2倍以上のゲイン

太陽型振動の検出 α CMi, τ Cet、太陽

1分ごとに星⇄astro-combを切り替えることで、高精度な視線速度の

時間変化の検出が期待できる

(天文コムの潜在能力のデモンストレーションと
視線速度測定の長期安定性についての課題の把握)

...

188cm望遠鏡のより効率的で戦略的な利用と、

大口径望遠鏡での高精度な(sub-m/s or better)波長校正基準を用いたサイエンスを切り拓くことを目指して、

まずは天文コムシステムの確立を試みています

RV survey of detached EBs

creating a new, extensive catalog of detached eclipsing binaries

